

島根・山口グローバル・セミナー2008
講義7「知識、教養、教育:歴史的考察と今後の展望」

竹内洋
関西大学文学部教授

講義要約

アメリカ史家ホーフスタッター(Hofstadter,R)は、名著『アメリカの反知性主義』(Anti-Intellectualism in American Life,1963)の中で、「知能」(intelligence)と「知性」(intellect)とを区別している。「知性」とは直接的経験から身を離す能力であり、当面の実用的な仕事を超越した包括的な視野のことであるとし、「知能」と「知性」との違いについてつぎのようにいっている。

Intelligence is an excellence of mind that is employed within a fairly narrow, immediate, and predictable range; it is a manipulative, adjustive, unfailingly practical quality

Intellect ,on the other hand, is the critical, creative, and contemplative side of mind. Whereas intelligence seeks to grasp, manipulate, re-order, adjust ,intellect examines,, ponders, wonders, theorizes ,criticizes, imagines.. Intelligence will seize the immediate meaning in a situation and evaluate it.Intellect evaluates evaluations and looks for the meaning of situations as a whole.

(知能はかなり狭い、直接の、予測可能な範囲に適用される頭脳の優秀さを指す。ものごとを処理し、適応するなど、きわめて実質的な特質である。・・・一方、知性は頭脳の批判的、創造的、思索的側面といえる。知能がものごとを把握し、処理し、再秩序化し、適応するのに対し、知性は吟味し、熟考し、疑い、理論化し、批判し、想像する。知能はひとつの状況のなかで直接的な意味を把握し、評価する。知性は評価を評価し、さまざまな状況の意味を包括したかたちで探し求める。田村哲夫訳)

このような分類にしたがえば、知能 (intelligence) は「専門知識」に、「知性」(intellect) は教養 (culture) に近くなる。専門知は「知識」(knowledge)に、教養知は「知恵」(wisdom)になる。以上の区別を頭におきながら、以下の点について講述したい。

- これまで専門知と教養知の関係はどうであったのか。
- なにが問題であったか。
- 教養はなぜ必要なのか。
- 教養教育と市民性教育 (citizenship education) の関係。
- これからの教養教育はどうあるべきか。

参考文献

- 竹内 洋『教養主義の没落—変わりゆくエリート学生文化』中公新書、2003
- 荻部 直『移りゆく「教養」』NTT出版、2007